

## 海外学術調査総括班平成 16 年度派遣

派遣国：ガンビア共和国、セネガル共和国

派遣者：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程  
鈴木 郁乃

### 0. はじめに

平成 16 年度の海外学術調査総括班の活動の一環として、セネガル共和国およびガンビア共和国における学術研究の動向に関する調査をおこなった。派遣日程は、平成 16 年 11 月 14 日より 12 月 25 日までである。

セネガルに関しては、これまでも多くの日本人研究者が調査を行い、また調査体制に関しても報告がなされてきたが<sup>1</sup>、ガンビアについては、これまで日本人研究者による調査がほとんど行われてこなかった。こうした背景を踏まえ、本稿ではガンビア共和国の民情、政情、調査実施状況を中心に報告する。

#### 写真 1



#### 1. セネガル共和国

ダカールにあるシェイク・アンタ・ディオプ大学の研究組織や、同大学にある総合的なアフリカ研究機関である IFAN (写真 1) については、真島 (1993) に詳細に報告されているため、ここでは割愛す

る。セネガルでの滞在期間中、筆者はセネガルで文献調査するうえで利用価値が高いと思われる、資料室 2 ヶ所を訪問した。

筆者は、セネガルを拠点とし、アフリカ以外にもその活動ネットワークを広げている NGO, ENDA tiers-monde のダカール市内にある資料

<sup>1</sup> 真島 (1993 : 16-20)、小川 (2000 : 12)。

室を訪ねた。この資料室には、ENDA がこれまでに出版した開発、教育、環境などに関する資料の他、アフリカ諸国の環境問題、教育、HIV/AIDS、農業、農村開発などに関する資料が集められ、一般に公開されている（資料室の利用時間は 8:30 から 16:00 で、調査時には特に身分証明書の提示や予約は不要であった）。開架の資料の中に学術論文は見当たらなかったが、セネガルにおいて調査・研究するうえで利用できる資料は少なくない。当然ながら、フランス語の資料が大半を占めるが、英語の資料も一部収蔵されている。また、この資料室の 1 階では、ENDA がこれまでに出版した資料を購入することもできる。

ENDA tiers-monde 本部所在地 4 & 5 Rue Kleber

連絡先 BP 3370, Dakar, Senegal : Tel 0221 842 82 50

ENDA 資料室所在地 54 Rue Camot, Dakar

ENDA ホームページ <http://www.enda.sn/org.htm>

また、ダカールから車で 4 時間ほど北に位置するサンルイ (Saint Louis) では、サンルイ博物館に併設された Centre de Recherche et de Documentation du Senegal (CRDS) de Saint-Louis の資料室 (Bibliotheque)を訪ねた (写真 2)。この資料室は、フランス植民地政府の資料館に収蔵されていた資料を受け継いでいるため、セネガルおよびモーリタニアの史・資料に関する利用価値は非常に高いと思われる。蔵書点数は約 2 万冊である。この資料室の利用時間は土日と月曜午前を除き、8:00 から 13:00、16:00 から 18:00 までである。CRDS の収蔵史料の内容や設立経緯については、以下のウェブサイトが参考になる。

写真 2



<http://www.senegal-online.com/francais/culture/crds/>

最後に、国際協力機構 (JICA) セネガル事務所の活動内容に関して触れておく。ダカール市内に位置する JICA のセネガル事務所は、現在

国際協力機構のセネガル事務所であるとともに、2004年10月に開設された中西部アフリカ地域支援事務所でもある。現在、63名の海外協力隊員がセネガルに派遣されており、その多くが村落開発活動に従事しているが、近年では環境教育や衛生保健教育などの教育部門における協力も増加の傾向にある。中西部アフリカ地域支援事務所としては、セネガルの他にガンビア、カーボヴェルデ、ギニアビサオ、マリ、モーリタニアへの地域支援事業を行っている。セネガルは他のフランス語圏アフリカ諸国の中でも、政情・民情が最も安定している国のひとつであり、国際機関ばかりでなく、先述の ENDA のような現地 NGO や草の根組織が活発に活動しているという特徴がある。また、物資の供給や電気、水道、道路、電話、インターネットといった、スムーズな協力活動を行ううえでのインフラも、ダカールのみならず地方都市においても整備されている。また、特に近年のコートジボアールの政情不安を理由に、多くの国際機関や外国企業によるアビジャンからダカールへの活動拠点の移転が相次いでいる。

地図 1



## 2. ガンビア共和国

ガンビア共和国は、アフリカ大陸の西端に位置する。アフリカ諸国の中で最も小さい国のひとつで、およそ 11,300 平方キロメー

トルの国土を有し、国土を二分するようにガンビア川が東西に横断している（地図 1）<sup>2</sup>。また、大西洋に面した西部の約 80km 以外の国境はセネガルに囲まれている。2004 年現在のガンビアの人口は 1,546,848 人である<sup>3</sup>。

ガンビアは 19 世紀末からイギリスの植民地とされていたが、他のイギリス領西アフリカ諸国と比べ、経済、社会インフラの整備に対する

<sup>2</sup> <http://www.cia.gov/publications> より転載

<sup>3</sup> <http://www.cia.gov/publications> による。

投資があまりなされないまま、1965年の独立を迎えた。1965年にイギリス女王を国家元首とする形で独立を果たした後、1970年にガンビア共和国として完全に独立した。1982年には隣国セネガルとともにセネガンビア連邦が発足し、特に軍事面で両国の関係が強まった。しかし1989年にセネガンビア連邦は解体し、一時セネガルとの関係が悪化するが、1991年には友好条約が締結され関係は改善する。独立以来、ガンビア大統領として6期目を迎えていたジャワラ政権は、1994年7月22日ジャメ（Yahya Jammeh）による軍事クーデターにより崩壊した。ジャメは1996年に総選挙を行い、大統領として選出され、2001年に二期目を迎えている。1994年のクーデター以降、政治的には比較的安定しているガンビアであるが、経済面では通貨ダラシ（Dalasi）は下落の一途にあり、2000年のレートでは1USD=12.8ダラシであったのに対し、調査時には1USD=28～30ダラシにまで下落していた。ガンビアを含む一部の西アフリカ諸国（ナイジェリア、ガーナ、リベリア、シエラレオネ、ギニア）では、共通通貨ECOの導入が検討されており、2004年9月に発表された計画では、2005年7月に導入が開始されることになっている。

ガンビア人口の約75%は落花生や米の栽培を中心とした農業や漁業および牧畜に従事しているが<sup>4</sup>、主要輸出作物である落花生の国際価格が下落する中、外貨獲得源として大西洋沿岸を中心とした観光業の重要性が高まっている。ガンビアは多くの日本人にとってはなじみのない国であるが、ヨーロッパから短時間でいけるビーチリゾート地として人気が高く、ヨーロッパの冬は、ガンビアの観光シーズンとなっている。主な観光資源としては、大西洋岸のビーチのほか、ガンビア川岸の鳥類をはじめとした野生動物があげられる。また、1970年代にドラマ化されたアレックス・ヘイリーの小説「ルーツ」の舞台がガンビアであることから、自らのルーツを探し求めてアメリカからガンビアに来る黒人旅行客も少なくない。主人公のクンタ・キンテの出身村とされるガンビア川北岸のJuhureh村では、クンタ・キンテの子孫と

<sup>4</sup> <http://www.odci.gov/cia/publications/factbook/geos/ga.html#People> による。

という人物による観光客の出迎えや、奴隷として拘束された当時の生活様式が見学できるなどといった「ルーツ」のブームをあてこんだ「村おこし」が盛んになったという（現在もこうしたツアーは実施されている）が、個人的には、このような先進国におけるアイデンティティ探しと連動した観光業の勃興とその影響が、アフリカ研究の興味深いテーマになるのではないかと思った。

日本は1994年のクーデター以降、ガンビアへの援助活動を一時停止していたが、97年に援助を再開している。援助内容は食糧援助、食糧増産援助、基礎生活分野、水産分野が中心となっている。

現在、ガンビアの公館は日本に設置されておらず、ガンビア入国に際して必要となる査証は、第三国で入手するか、空路で入国する場合には空港にてトランジットビザを発行してもらうことになる。後者の場合は、確実にビザが発行してもらえるという保障はなく、リスクが高い。日本からガンビアに行く場合に経由するヨーロッパの都市（ブリュッセル、ロンドン、パリなど）や隣国セネガルなどのガンビア公館で事前に査証を発行してもらう方が確実である。ガンビアへの定期航路を持つ航空会社はSN Brussels, Ghana Airways, Air Senegal International, Gambia Airlines等のほか、イギリス発着のチャーター便も就航している。今回の調査で筆者は、隣国セネガルのガンビア高等弁務官事務所にて査証を入手した。学術調査目的の査証は特になく、通常の旅行者と同じ査証で問題ない。申請時に必要になる書類は、パスポート、イエローカード、パスポートサイズの写真2枚、および滞在期間に応じた申請料金（下記参照）のみである。ダカールのガンビア高等弁務官事務所では、申請翌日に査証が発給された。

- |                   |           |           |
|-------------------|-----------|-----------|
| 1. Single Entry   | 3 Months  | 25,000CFA |
| 2. Multiple Entry | 3 Months  | 30,000CFA |
| 3. Multiple Entry | 6 Months  | 35,000CFA |
| 4. Multiple Entry | 12 Months | 40,000CFA |
| 5. Transit        |           | 15,000CFA |

申請代金については、変更となる場合があるので、事前に確かめておいたほうが良い。今回利用した在セネガル、ガンビア高等弁務官事務所の連絡先は下記のとおり。

Gambia High Commission-Dakar

11 Rue de Thiong, B.P. 3248 Dakar, Senegal

Tel: +221 8217230/8214478 Fax: +221 8216279

今回、筆者は乗り合いタクシーとフェリーを利用し、ダカールからガンビアの首都バンジュールに移動した。途中で2,3回車の乗換えが必要になるが、所要時間は8時間程度で、かかった料金は10USD程であった。

写真3

写真4



ガンビア共和国の首都バンジュール (Banjul) には、政府機関の多くが集中している (写真3、写真4)。

地図2



一方、商業の中心地は外国人観光客の多く集まる大西洋岸の町セレクンダ周辺である。宿泊施設や各国大使館、市場、インターネットカフェなどはセレクンダ (Serrekunda)、およびセレクンダ近隣の大西洋沿岸部に集中している (地図2)<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> [http://encarta.msn.com/map\\_701510496/Banjul.html](http://encarta.msn.com/map_701510496/Banjul.html) より転載。

調査に必要となる物資の多くは、食品から日用品、電化製品にいたるまで、セレクンダ周辺のスーパーマーケット等で手に入れることができる。両替所や銀行も太平洋沿岸部では数多く見られるが、内陸に入ると銀行はほとんどない。

医療設備に関しては、イギリス系の Medical Research Council がセレクンダ北部のファジャラ (Fajara) という地区と内陸のバンサン (Bansang) という町に入院設備のある大規模な病院を構えているほか、バンジュールには国立の Royal Victoria Hospital がある。小規模なクリニックやヘルスケアセンター、薬局は西部の都市部ばかりでなく、地方の町にも見られ、比較的医療設備へのアクセスが良いという印象を受けた。

バンジュールおよびセレクンダ周辺の移動は、タクシーやワゴン車の乗り合いタクシーが便利である。今回の調査では、筆者はタクシー、乗り合いタクシーおよび長距離バス（写真 5）で国内を移動していた



写真 5

が、外国人観光客の多い土地柄ゆえ、ホテルや現地旅行代理店を通じて運転手付きの車や車だけをレンタルすることも容易に可能である。ホテルに滞在している限りは電気や水道設備に不便は感じないが、セレクン

ダやバンジュールといった中心都市でも 24 時間電気が供給されることはまずなく、昼夜を問わず停電する。また、電話に関しては携帯電話台数が増加しているほか、町のいたるところにある電話屋

(Telecentre) や電話局で国際、国内電話をかけることができる。しかしこちらも、時として通話不可になる場合があり、調査中に 5 日程滞在した内陸の町、ジョージタウン (Georgetown) では、電話が 2 ヶ月以上も不通であった。道路の整備も、大西洋沿岸に限っては特に不便は感じなかったが、内陸に入ると舗装道路が少なく、また舗装されて

いたとしても修復があまりなされていない。特に、ガンビア川南岸は道路の状態は劣悪であり、セレクンダから 300km ほど離れた東部の都市バッセサントスへの移動には長距離バスで 12 時間を要した。過去には太平洋沿岸部と内陸部を結ぶ重要な交通手段としてガンビア川を船が移動していたとのことであるが、現在では南岸と北岸を結ぶ小規模フェリーや観光客向けの遊覧ボート、および落花生運搬用のボート(収穫期のみ利用)以外にガンビア川を航行する船はなく、車もっぱらの移動手段となっている。

ガンビアにおいて唯一の大学であるガンビア大学 (University of the Gambia) が設立されたのは 1999 年である。この大学が設置されるまでは、セレクンダ郊外のブリカマ (Brikama) という町にあるガンビアカレッジが唯一の高等教育の場であった(以前は、大学進学を目指すガンビア人はナイジェリアやガーナ、シエラレオネなどの英語圏アフリカ諸国の大学に進学していたという)。しかし大学が開校された現在でも、大学進学者数は非常に少ない。ガンビア大学では現在、学部レベルの教育が行われており、大学院は開設されていない。表 1 にガンビア大学で開設されている学部および講座、教員、学生数を示した。

表1: University of the Gambia の設置学部・教員及び学生数(2003/2004)

学部名	Faculty of Humanities and Social Sciences	
教員数	Full-time: 25	Part-time: 5
学生数	76 (男子 64・女子 12)	
設置学科	English, French, History, Islamic Studies, Development Studies, Geography, Sociology, Political Science	

学部名	Faculty of Economics and Management Sciences	
教員数	Full-time: 1	Part-time: 10
学生数	51 (男子 40・女子 11)	
設置学科	Economics, Management	

学部名	Faculty of Science and Agriculture	
教員数	Full-time: 17	Part-time: 11
学生数	65 (男子 50・女子 15)	
設置学科	Agriculture, Mathematics, Biology, Physics, Chemistry, Environmental Science/ Geography	

学部名	Faculty of Medicine and Allied Health Sciences	
教員数	Full-time: 22	Part-time: 19
学生数	63 (男子 44・女子 19)	
設置学科	Medicine, Nursing , Environmental/Public Health	

現在のガンビア大学はまとまったキャンパスを持っておらず、今回訪れた大学事務局(写真 6)、人文・社会科学部、理学部・農学部はセレクンダ郊外のカニフェング(Kanifeng)に、図書館および経済・経営学部はセレクンダにあり、医学部はバンジュールで授業を行っている。現在のところガンビア大学は研究活動よりも、教育活動に重点がおかれており、外国人研究者の受け入れ(教員、職員をのぞく)などはおこなわれていないが、将来的には大学院の設置も視野に入れているとのことである。



University of the Gambia  
PO BOX 3530 Serrekunda, The Gambia  
Tel.+220 372 213 Fax.+220 395 064



写真 7

セレクンダから 30 分ほど南に行ったところにある、ブリカマという町に設立された国立農業研究所 (National Agricultural Research

Institute-NARI) は、ガンビアで人類学的調査をおこなう際には、一度は足を運ぶ価値のある研究所である(写真 7)。国立農業研究所は、1970 年代に農業研究機関として政府によってユンドウン(現在バンジ

ユール空港のある町)に設置されたが、1993年に方針転換がなされ、農民に還元される農業研究をおこなう半官半民の研究組織に改組され、ブリカマに移転した。この研究所では30人前後の研究員および職員が勤務しており、彼らのほとんどがヨーロッパやアメリカなどで教育を受けたガンビア人研究者である。NARIの研究分野は農業に限らず、漁業や家畜飼養といったガンビア人の生業活動全般にわたる。また、現在特に重点を置いている活動として、ガンビアの生業、および他地域の農業に関する資料の収集があげられる。こうして収集された資料は約10,000点を数え、その中には国外の大学に提出された60点近くのガンビアに関する学位論文も含まれる。これらの資料は、NARIの資料室で管理され一般に公開され、資料室には司書も常駐している。NARI資料室は月曜日から金曜日までの8時から16時まで開館しており、資料の閲覧は特に手続きは必要なく自由に行なうことができる。ガンビア国内で外国人研究者が学術調査を行なう場合、後述する天然資源にかかわる調査を除き、特に調査許可は必要とされないが、NARIと事前に連絡を取り調査協力を得ることで、よりスムーズな現地調査ができるものと考えられる。

National Agricultural Research Institute (N.A.R.I.)

PO BOX 526 Serrekunda, the Gambia

Tel. +220 472 876/ 484 925

Fax. +220 472 875/ 484 921

E-mail nari@qanet.gm

ガンビアにおいて人類学的研究の蓄積は多くはないが、一方で生態学的研究は活発に行なわれている。ガンビアには現在6つの国立公園があり、それらは国土の約4%を占めている。また、これとは別に森林公園(Forest Park)も数箇所設けられており、自然保護活動が政府により積極的に行なわれているという印象を強く受けた。こうした国立公園、および自然資源一般の管理を行なっているのが、セレクンダの南東10kmほどの町、アブコ(Abuko)にあるDepartment of Parks and



写真 8

Wildlife Management (DPWM)である。この組織の前身は 1977 年に設置された Wildlife Conservation Unit で、1981 年に漁業・天然資源・環境省 (Ministry of State for Fisheries, Natural Resources and the Environment) が発足したのを機に Department となった。現在 DPWM の協力のもと、アブコ郊外でエコツーリズムのプロジェクトがイギリスの NGO とともに展開されているほか、Kiang West National Park ではドイツの調査隊による動植物の分布調査が、国内最大の広さをもつ River Gambia National Park (写真 8) ではイギリスの NGO によりチンパンジーの再野生化プロジェクトなどが行なわれている。ガンビア国内の国立公園、及び国内の天然資源 (野生生物) に関する調査を行なう場合、この DPWM からの許可が必要となる。こうした調査を希望する場合、ガンビア入国の 1 ヶ月ほど前に、希望調査地、予定調査期間、調査内容を明記した申請書 (形式自由) を作成し、DPWM あてに送付する。調査内容が DPWM に認められれば、調査を行なう許可は発行してもらえるが、調査許可発行の条件として、以下の規定に従わなければならない。調査費として USD300 ~ 400 を DPWM に支払うこと<sup>6</sup>、

<sup>6</sup> 調査費の額は変更される可能性があるため、要確認。

ガンビア人研究者養成のため、調査にはガンビア人アシスタントを伴うこと、ガンビア国内で調査した内容を学会等で発表する場合、DPWM および漁業・天然資源・環境省を調査協力者として言及し、発表論文のコピーを一部 DPWM 宛に送付すること。

Department of Parks and Wildlife Management  
c/o Department of State for Fisheries, Natural Resources  
and the Environment

State House, Banjul, The Gambia

Tel. +220 437 5888/ +220 437 6973

Fax. +220 439 2179

E-mail [wildlife@gamtel.gm](mailto:wildlife@gamtel.gm)

ガンビア公文書館 (National Archives) は 1965 年のガンビア独立とほぼ同時期に設立された。公文書館にはセンサスや報告書といった各省発行の資料のほか植民地時代の資料も多く収蔵されている。基本的に各省発行の最新資料については、各省に保管されているため、この公文書館にある各省資料の多くは 20 年ほど前のものである。公文書館の利用時間は、月曜日から木曜日の 9 時 30 分から 15 時、金曜日の 9 時 30 分から 11 時 30 分までとなっている。初めてこの公文書館を利用する場合、身分証明書の提示と専用の申込書への記入が求められ、登録すると 1 年間有効の *Reader's Ticket* が発行される。*Reader's Ticket* の発行は無料で、公文書館の資料を利用する都度、この *Reader's Ticket* を提示しなければならない。

Personnel Management Office

National Record Service (National Archives)

The Quadrangle, Banjul, The Gambia

Tel. +220 226 700/ +220 224 712

Fax. +220 420 2086

E-mail [nrs@gamtel.gm](mailto:nrs@gamtel.gm)

#### 4. おわりに

今回のセネガル・ガンビア派遣では渡航前準備の段階から数多くの方々にお世話になった。ダカールでは JICA セネガル事務所中西部アフリカ地域遅延事務所長の加藤隆一氏をはじめスタッフの皆さんと京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の高橋隆太氏に多大なご協力をいただいた。また、ガンビアでは各研究機関、政府機関の方々から調査手法に関する有益な情報のほか、ガンビアの一般情報についても提供していただいた。本当に多くの方々にお世話になったため、ここですべての方のお名前を挙げることはできないが、心からお礼申し上げます。

#### 5. 参考資料

- アレックス・ヘイリー 1977 『ルーツ（上、下）』世界思想社
- 小川 了 2000 「平成 11 年度海外学術調査のための派遣報告（西アフリカ）」『海外学術調査ニュースレター』43：9-13 .
- 真島 一郎 1993 「セネガル、ギニア、コートジボアールにおける学術研究体制の動向」『海外学術調査ニュースレター』25：16-26 .
- CIA WORLD FACTBOOK <http://www.cia.gov/publications> (地図1)
- ENDA Website <http://www.enda.sn/org.htm>
- GAMBIA GATEWAY <http://gambiagateway.tripod.com/>
- MSN Encarta  
[http://encarta.msn.com/map\\_701510496/Banjul.html](http://encarta.msn.com/map_701510496/Banjul.html) (地図2)
- The Gambia Official Website <http://www.gambia.gm/>
- Senegal-online  
<http://www.senegal-online.com/francais/culture/crds/>